

令和元年度中学生・高校生の国際理解・国際交流論文
中学校の部 最優秀賞



豊かな日本の見えない問題

白河市立白河第二中学校

2年 鴻巣 桜子

14歳になった私は、まだ日本の外に出たことがない。しかし、日本は素晴らしい国だと思ってきた。日本は豊かで、安全だ。飢えている人はいないし、恐ろしいテロはおきない。日本人は礼儀正しくて、親切だ。美しい四季と文化があり、外国人観光客もたくさん訪れている。日本は世界に愛されていて、誇らしい国だと信じてきた。日本で暮らしている限り、私は幸せだと思ってきた。

しかし、その考えは変わりつつある。私の母は、毎週自宅で「こども食堂」を開いている。子どもたちが無料でごはんを食べられる食堂だ。なぜ、こども食堂を必要としている人がいるのか。調べたら、日本では7人に1人の子どもが貧困だということだった。児童虐待の件数も増えている。不登校も増えている。日本には、苦しんでいる子どもたちがたくさんいることを私は知った。

もしかしたら日本は、私が信じてきたほど、豊かで安全な国ではないのかもしれない。疑問に思って調べてみたら、様々な問題があることがわかった。例えば子どもだけでなく、大人の貧困も深刻だった。女性の貧困は特に深刻で、独身女性の3分の1が貧困だ。女性は差別され、セクシャルハラスメントがたくさん起き、社会進出が進んでいない。LGBTへの差別も起きている。障がい者への差別も根強く残っており、学校も含めてバリアフリーになっていない施設がたくさんある。外国人差別もある。今、この論文を書いている時、日本と韓国との関係が悪化し、インターネット上には、韓国人を差別する言葉があふれている。確かに日本ではテロも戦争も起きていないし、餓死してしまうほどの貧困はほとんどないかもしれない。しかし、「豊かな先進国」というキラキラしたイメージの陰で、苦しんでいる人たちがたくさんいる。そういった見えない問題を抱えた日本は、はたして誇れる国だろうか。

しかし、差別や貧困は、日本だけの問題ではないはずだ。他の先進国では、どのように問題に向き合っているのだろうか。例えば、福祉が充実している北欧の国々では、医療や教育や出産にかかる費用が無料で、貧困を生まない対策をしている。そしてさらに、ベーシックインカムの実験を行い、それでも貧困になってしまう人を支えようとしている。そのように、積極的に貧困という問題に向き合おうとしている。同性婚についても、法律で認

められる国が増えている。女性差別については、フランスでは選挙の候補者の半分以上を女性とすることが法律で定められていて、差別をなくす積極的な試みが行われている。世界的には女性のリーダーが増え、首相が産休をとったり、国会に子どもづれで参加することができたりする。外国人差別についてはどうだろう。移民問題で揺れるヨーロッパやアメリカでも、差別が深刻だ。移民に反対するテロも起きた。しかし、テロが起きた国のリーダーたちが、自ら差別に反対するメッセージを発した。人種差別主義者によって2011年に77人が亡くなるテロが起きたノルウェーでは、首相が多様性を尊重するスピーチを行った。今年の3月にニュージーランドで起きたイスラム教徒へのテロでは、首相がスピーチで民族差別を非難し、すぐに銃規制を行った。

これらのことから、苦しんでいる人がいるときに、先進各国ではその問題に積極的に取り組んでいることがわかる。日本はどうだろうか。差別や貧困といった問題に対して、積極的な取り組みがされているだろうか。そうではないと思う。今年の夏の参議院議員選挙で、重度障がい者2名が当選した。そしてようやく、国会のバリアフリー化が行われた。なぜ、今までバリアフリーにならなかったのだろうか。それは、「障がい者は国会議員になるわけない」という偏見があったからではないか。貧困問題も同じだ。「貧困は自己責任だ」という偏見があるから、取り組みが進まないのではないか。

なぜ、同じ差別や貧困という問題を抱えているのに、日本と他の先進国とでは問題に取り組む姿勢が違うのだろうか。私は、ひとりひとりが声をあげるかどうかの違いだと考える。他の先進国では、困っている当事者や、何かを変えたいと願う人たちが、デモなどで声をあげることによって、制度が変えられてきた。しかし日本では、声をあげる人はまだまだ少ない。東日本大震災の原発事故の後で、反原発のデモなどで声をあげる人は増えたけれど、それを悪く言ったり、冷ややかに見たりしている人のほうが多い。日本ではそもそも、政治に興味を持つことが歓迎されない。学校でも、政治の話をするとうそで浮いてしまう。だから、問題が起きていても、それを変えようという動きにならず、見て見ぬふりがされてしまう。

来年にはこの日本で、オリンピックとパラリンピックが開かれる。そのために今、海外に向けて、日本がいかに素晴らしい国かをアピールしている。しかし、華々しい部分だけをアピールして、様々な問題を置き去りにしているのは、本当に素晴らしい国と言えるのだろうか。自分の国の問題と向き合い、困っている人や弱者のための政治を優先し、過去の歴史をしっかりと語り継ぐことが、本当の素晴らしさではないか。

オリンピック・パラリンピックをきっかけに、たくさんの外国人が日本を訪れ、国際交流の場は増える。しかし、社会問題に向き合う姿勢や、歴史への理解や、政治への関心が乏しいままでは、私たちは自分の国について表面的なことしか語れず、交流は中身の薄いものになってしまうだろう。より有意義な国際交流のために、私たちはまず、自国の社会問題に目を向け、積極的に取り組む必要があると私は考える。